

豊小っ子だより

竹田市立豊岡小学校

2025年2月27日

文責：安東 紀代美



豊岡小HPへ

“仲よく元気な豊小っ子に” 来年度児童会前期メンバー

2月19日（水）、委員会活動の委員交代の会がありました。まず、現後期のメンバーが挨拶をしました。だんだんと自主的な活動が広がり、活気づいてきた豊岡小の委員会活動です。これまでやってきた活動の中で、自分たちでできることは先生を頼らず進めたり、自分たちのアイデアで活動を始めたり、豊岡小学校をよりよくするためにがんばっていました。お疲れさまでした！

次は、来年度の前期メンバーの紹介です。児童会長に阿南せなとさん、議長に森こうたろうさん、副会長に麻野あいりさん、書記に林ゆうなさんがなりました。みんな元気で仲の良い豊岡小学校にしたいと決意表明をしました。また、図書委員長には麻生になさん、保育委員長には添田あいりさん、放送委員長には池田よしきさんになりました。来年度前期委員会から、現3年生が参画します。みんなで協力して豊岡小学校を創っていきましょう！



非認知能力を育てましょう

◆非認知能力とは

「非認知能力」という言葉を知っていますか。これは「学力テストなどでは数値化されない、子どもの将来や人生を豊かにする力」のことです。具体的には、「目標を決めて取り組む」「意欲を出す」「新しい発想をする」「周りの人と円滑なコミュニケーションをとる」などの力を指します。

最近の数多くの研究では、目に見える力・数値化できる力である認知能力よりも、目に見えない、数値化しにくい力である非認知能力の方が将来の成功につながるということがわかってきています。学力を伸ばすにも非認知能力が重要であると言われています。

非認知能力は生涯にわたって役立つ力ですが、これを育てるには幼児期から学童期にかけての取組が重要だと言われています。



◆例1：何かに夢中になる力

意欲や意志を持った子どもは、自分がやると決めたら大人が思った以上に考えを巡らせますし、何かを想像したり、創り出したりすることもあります。できなかつたことをできるようにするにはどうすればいいのか考えていろいろ試してみることもあるでしょう。失敗しても何度も挑戦する気持ちを持っています。また、好きなものに熱中すると、まわりの人が声をかけても気が付かないほどの集中力を発揮するとも言われています。

◆例2：自分のことを好きだと思える力

子どもは、いちばん身近な存在である親から愛されることがなによりも大事。自分のすべてを受け止めてもらえると心の安定感を得て、自分に自信を持ちます。親をはじめとするまわりの人々に大切にされたら、子どもも親やまわりの人たちを大切にし、思いやりの心が芽生えます。「成功しても失敗しても、家族が自分を好きなことには変わりない」という気持ちがあるので、臆せずにやることに積極的にチャレンジするでしょう。



◆例3：他者とコミュニケーションできる力

小学校、中学校や高校、大学、さらに社会に出ても、私たちはさまざまな人と出会います。一緒に何かをつくりたり、助け合ったりする機会もたくさんあります。そのような場面では、相手の気持ちも思いやりながら、行動することが求められます。また自分の意見を伝えることやリーダーシップを求められる場合もあるでしょう。

非認知能力を育てるポイントとして、「子どもを丸ごと受け止める」「いろいろな遊びやお手伝いを日常的にさせる」「子どもの好きなことをさせる」などがあります。子どもたちは、たくさんの友だちとふれ合う機会が多いほか、家族で過ごす時間も長いものです。楽しい時間を共有する中で、自然と非認知能力を鍛え、子どもの将来につながるような豊かな力を一緒に育んでいきましょう。

（参照：【小学館の幼児教室】ドラキッズHP）

記録をめざして！～なわとび大会～

2月4日（火）、なわとび大会が行われました。寒い中でもずっと練習に励んできた子どもたちが、最後の最後までねばり強く跳びました。

